江西にて[[1]](#footnote-1)

　　　　　　　　　香山光郎

子と二人で、十畳の一を借りて、僧な生活をしてゐます。小生の近、まがひにて

“아들과 둘이서 십 첩疊 타다미 방을 하나 빌려 승려와 같은 생활을 하고 있습니다. 소생小生의 근황을 단카短歌 비슷이 전하면”

三日月の皐月のを畦づたひ蛙のに導かれ行く[[2]](#footnote-2)

음력 오월 초사흘달 저녁 무렵 논두렁 따라 개구리 소리에 이끌려 걷네

苗代の水汲む農夫の上る鷺立つ野邊の夕陽の赤さよ

못자리에 물을 대는 농부의 소리 ~~높아지는~~ 해오라기 서 있는 들판의 붉은 석양이여

「鷺立つ」は鷺が突っ立っているという意味と、鷺が立ち去るの意味があります。「立つ鳥あとを濁さず」という超有名コトワザのため「鳥が立つ」は立ち去るイメージが強いので、ここでは後者だと思います。鷺がとつぜん舞い上がり、それを見た農夫が「おお！」と声を上げたのでしょう。

なれば野邊の雲雀を夕さればなく鳥を裏山に聴く[[3]](#footnote-3)

낮이면 들판의 종다리 소리, 밤이면 밤새 뒷산의 새소리를 듣네

なだらかに流るゝをえて行く風にはるゝの青

완만히 경사진 언덕을 넘어가는 바람에 쫓기는 푸른 보리 파도

わがにかせまほしや靄ごもりあかつくの山鳥の[[4]](#footnote-4)

우리 임금님께 들려드리고 싶어라. 짙은 아지랑이 낀 숲의 산새 소리

内容から見て「わが君」を「임금님」と解釈するのは難しいでしょう。奥さんだと思います。

1. 1943年6月18日付『京城日報』 [↑](#footnote-ref-1)
2. 三日月のかかった五月の夕暮れ、田んぼの畔を蛙の声に導かれて歩いていく。 [↑](#footnote-ref-2)
3. 昼は野原のひばり、暮れれば夜の鳥の声が裏山から聞こえてくる。 [↑](#footnote-ref-3)
4. あなたに聴かせてあげたいな。靄がかかった夕焼の森に鳴く山鳥の声を。 [↑](#footnote-ref-4)